

真理を求め努力を惜しまぬ生徒 互いを認め合う思いやりのある生徒 心身ともに健康で責任を果たす生徒

夢つむぐ浜中生



浜頓別町立浜頓別中学校
学校だより 第13号
R8年 3月24日発行
文責・編集・発行：教頭

言葉にできない



感動の卒業証書授与式が終わりました。多くの人が涙を流して別れを惜しみ、過ごした時間に想いを馳せていたのではないかと思います。また、多くの来賓の方からも、「良い卒業式だった」とお言葉をいただきました。卒業生だけでなく、在校生も良い卒業式にしようと、準備、本番と取り組めたからこそ実現できたのではないかと思います。こういった感動の想いは、なかなか言葉にできないものですね。



ところで、25年ほど前、私がまだ若かった頃、何に対しても「かわいい～」と表現する時代がありました。当時、やや尖り気味だった私は、「かわいいにしても、種類があるだろう」「もっと適した表現があるだろう」と斜に構えてニュースを見聞きしていました。



そんな私も親となり、子どもの言語環境を整えなければならぬ立場となりました。同時に、この仕事をしているため、同世代の子どもたちの言語環境にも目を配るようになりました。はて、大人である私たちは、どれくらい適切に言葉を操れているのかなと思うようになりました。



どれだけ子どもの思いを言語化させることができたか。言語化するまで待っていられたか。伝わらないなと感じたときにどれだけ問い返しができたか。振り返ると、反省も多い子育てだなと思います。それと同時に、子どもの成長に併せて私自身も成長し続けなければと感じます。この学校だよりを書かせていただいておりますが、もっと適切な表現があるのかもしれない、と思い、職員室前に掲示してある学校だよりを見直すようにしています。



←同窓会入会式

文字情報が
多めで
すみません

現在は第4次かわいい (kawaii) ブームだそうです。言葉は自由で移り変わりますが、より良い表現を探し続けたいと思います。



←子ども顕彰表彰

吹奏楽部ラストコンサート

部活動の地域展開を推進するにあたり、今年度をもって廃部となる吹奏楽部のラストコンサートが行われました。保護者の方々も観覧に来ていただき、多くの観客の前で演奏を披露しました。

これで、PC部を含め、すべての部活動について廃部となります。今後は、地域における様々な活動に取り組んでもらえたらと思います。



浜中HPはこちら



1年間の感謝に変えて ～言語化のススメ～

校長：明石 貴宣

今年度の教育活動を終えるにあたり、改めて保護者の皆様、地域の皆様、学校関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。

また先日は、多数のご来賓や保護者の皆様の拍手に包まれ、温かい卒業証書授与式を挙行することができました。こちらもちょうど感謝申し上げます。

さて、卒業式の式辞の中で卒業生に贈る言葉として、「言葉を大切にしてほしい」という話をしました。「自分が発する言葉は自分そのものであり、言葉によって人生が創られてゆくから、自分の気持ちを正しく言語化してほしい」と伝えました。話すにしても書くにしても、言葉を雑に使うと生き方そのものが雑になってしまいます。本校の大事な卒業生たちには本当に幸せになってほしいし、豊かな人生を歩んでほしいと思っているので、豊かな言葉を使ってほしいと心から思います。

昨年度の文部科学省の調査では子どもの暴力行為が12万件を大きく上回っており、特に小学校低学年の暴力が急増しています。自分の気持ちをうまく言葉にできず、悲しい気持ちなのに「ムカつく」という言葉にすることで暴力に発展したり、気持ちを言葉で伝えられないために手を出して関心を引こうとしたりするケースが見られるようです。

背景として、幼少期のコミュニケーションの機会が減っているということも一因にあるそうです。子どもたちが無邪気に話す「先生あのね」や「お母さんあのね」は、その後の言語能力の育成に欠かせない大切な機会です。その点、本校の生徒はよくしゃべります。おそらく、ご家庭でのコミュニケーションの賜物だと思います。もちろん、気楽に話すのが苦手な生徒もいますが、先生方はそういう生徒にも声をかけ、「先生あのね」の機会を作り出してくれています。今後も、言語環境を整え、豊かな言語を使える生徒を育てていきたいと考えています。

さて、本校では来年度、校訓を「Only one」にいたします。一人一人を尊重し、誰一人取り残すことなく社会の創り手として「生きる力」を育むこと、を言語化したものです。今年度のご理解とご協力に感謝するとともに、今後のさらなるご支援をお願い申し上げ、年度末にあたってのご挨拶といたします。